

令和 2 年度

事業報告書

公益財団法人広島平和文化センター

目 次

事業報告書

1	設立目的及び概況	1
2	役員等の状況	2
3	理事会等の開催	5
4	定款の変更	7
5	職員の状況	8
6	事業の実施状況等	
I	事業の実施状況	
(1)	公益目的事業1(平和推進事業)	
ア	被爆体験継承普及事業	9
イ	平和意識高揚事業	1 6
ウ	国際平和推進事業	1 9
エ	施設の管理運営	2 7
(2)	公益目的事業2(国際交流・協力事業)	
ア	国際交流・協力推進事業	3 1
イ	国際化推進事業	3 3
ウ	ひろしま奨学金支給事業	3 7
(3)	収益事業等	
ア	広島平和記念資料館での収益事業	3 8
イ	広島国際会議場での収益事業	3 8
ウ	広島国際会議場の管理運営	3 8
II	無償使用貸借資産	3 9
III	事業報告の附属明細書	3 9

事業報告書

事業報告書

令和２年度公益財団法人広島平和文化センター事業報告書 (令和２年４月１日から令和３年３月３１日まで)

１ 設立目的及び概況

(1) 設立目的

広島の被爆体験を根底に据え、その継承を図るとともに、国内外の平和研究機関、関係団体等と連携し、全人類的な視野に立って、平和思想の普及と国際相互理解・協力の増進を図り、もって世界平和の推進と人類の福祉の増進に寄与することを目的とする。

(2) 概況

ア 設立年月日

昭和５１年４月１日

イ 基本財産

設立当初の基本財産は１，０００万円（全額広島市出資）であったが、その後１３億２，９６４万１，５５３円を増額し、令和２年度末現在の基本財産は１３億３，９６４万１，５５３円（うち広島市出資１２億６４８万９，０４３円）である。

ウ 実施事業

実施事業は、次のとおりである。

- (ア) 平和の推進及び国際交流・協力に関する調査研究
- (イ) 原爆被爆の実相、平和の推進及び国際交流・協力に関する国内外の資料・情報等の収集、整理及び活用
- (ウ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する国際会議、講座、講演会、展示会等の開催
- (エ) 国内外の研究所、市民団体等との交流並びに平和の推進及び国際交流・協力活動に対する助成
- (オ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する出版物の刊行及び頒布並びに記念品の製作・販売

- (カ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する施設の管理の受託
- (キ) その他公益財団法人広島平和文化センターの目的を達成するために必要な事業

2 役員等の状況

(1) 役員等の数

会 長	1 人
理 事 長	1 人
常務理事	2 人
理 事	2 0 人
監 事	2 人
評 議 員	1 6 人

(2) 理事・監事

ア 事業年度中の理事・監事の異動は、次のとおりである。

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異 動 内 容
令和 2 年 4 月 1 日	常務理事	柴 田 吉 男	就 任
〃	理 事	殿 納 隆 義	就 任
〃	〃	西 田 敏 啓	就 任
〃	〃	頼 信 直 枝	就 任
令和 2 年 1 2 月 3 1 日	〃	小 川 裕 介	辞 任
令和 3 年 1 月 1 日	〃	澁 谷 和 佳	就 任
令和 3 年 3 月 3 1 日	〃	岩 崎 静 二	辞 任
〃	〃	三 角 幸 子	辞 任
〃	〃	渡 辺 宏	辞 任

イ 令和3年3月31日現在の理事・監事は、次のとおりである。

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
会 長	松 井 一 實	平成23年 4月11日
理 事 長	小 泉 崇	令和元年 6月14日
常務理事	岩 崎 静 二	平成28年 4月 1日
〃	柴 田 吉 男	令和 2 年 4月 1日
理 事	伊 木 剛 二	令和元年 12月 1日
〃	大 芝 亮	平成31年 4月 1日
〃	小 川 順 子	平成23年 4月 1日
〃	川 野 徳 幸	平成29年 4月 1日
〃	神 部 泰	平成28年 12月26日
〃	岸 本 伸 三	平成23年 4月 1日
〃	北 川 建 次	平成23年 4月 1日
〃	ビーター・ゴールズベリ	平成23年 4月 1日
〃	柴 田 幸 子	平成23年 4月 1日
〃	澁 谷 和 佳	令和 3 年 1月 1日
〃	田 代 聡	平成31年 4月 1日
〃	茶 幡 博 子	平成23年 4月 1日
〃	殿 納 隆 義	令和 2 年 4月 1日
〃	西 田 敏 啓	令和 2 年 4月 1日
〃	延 本 真栄子	平成23年 4月 1日
〃	三 角 幸 子	平成30年 4月 1日
〃	宮 田 俊 範	令和 2 年 2月 1日
〃	頼 信 直 枝	令和 2 年 4月 1日
〃	渡 部 朋 子	平成23年 4月 1日
〃	渡 辺 宏	平成29年 4月 1日
監 事	久 光 章	平成30年 4月 1日
〃	尾 木 朗	平成30年 6月27日

(3) 評議員

ア 事業年度中の評議員の異動は、次のとおりである。

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異動内容
令和 2 年 6 月 2 2 日	評 議 員	徳 田 洋 子	辞 任
令和 2 年 6 月 2 3 日	〃	栗 原 理	就 任
令和 2 年 6 月 2 5 日	〃	松 村 誠	辞 任
令和 2 年 6 月 2 6 日	〃	佐々木 博	就 任
令和 2 年 6 月 3 0 日	〃	森 戸 美佐子	辞 任
令和 2 年 7 月 1 日	〃	堀 江 嘉 子	就 任
令和 2 年 1 2 月 3 1 日	〃	上 野 慎一郎	辞 任
令和 3 年 1 月 1 日	〃	杉 川 綾	就 任

イ 令和 3 年 3 月 3 1 日現在の評議員は次のとおりである。

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
評 議 員	池 上 忍	平成 2 3 年 4 月 1 日
〃	植 野 実智成	令和 元 年 1 1 月 1 2 日
〃	片 岡 勝 子	平成 2 3 年 4 月 1 日
〃	神 谷 研 二	令和 元 年 7 月 1 日
〃	栗 原 理	令和 2 年 6 月 2 3 日
〃	佐々木 博	令和 2 年 6 月 2 6 日
〃	杉 川 綾	令和 3 年 1 月 1 日
〃	多 田 チャニントン	平成 2 3 年 4 月 1 日
〃	月 村 佳 子	平成 2 6 年 5 月 1 日
〃	坪 井 直	平成 2 3 年 4 月 1 日
〃	丹 羽 太 貫	平成 2 7 年 7 月 1 日
〃	古 谷 章 子	平成 2 3 年 4 月 1 日
〃	堀 江 嘉 子	令和 2 年 7 月 1 日
〃	三 上 貴 教	平成 3 0 年 4 月 1 日
〃	森 瀧 春 子	平成 2 3 年 4 月 1 日
〃	若 林 真 一	平成 3 1 年 4 月 1 日

3 理事会等の開催

(1) 理事会

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審 議 結 果
令和 2 年 4 月 1 日 (決議の省略)	第 1 回	1 常務理事の選定について (第 1 号議案)	選 定
令和 2 年 5 月 2 7 日 (決議の省略)	第 2 回	1 職員の職務に係る倫理の保持に関する状況及び職員の職務に係る倫理の保持に関して講じた施策に関する報告について (報告第 1 号) 2 平成 3 1 年度公益財団法人広島平和文化センター事業報告及び決算について (第 2 号議案)	終 了 承認
令和 2 年 6 月 1 8 日 (決議の省略)	第 3 回	1 令和 2 年度公益財団法人広島平和文化センター収支予算の補正について (第 3 号議案)	承認
令和 2 年 7 月 2 8 日 (決議の省略)	第 4 回	1 令和 2 年度公益財団法人広島平和文化センター事業計画の変更及び収支予算の補正について (第 4 号議案)	承認
令和 2 年 1 0 月 9 日	第 5 回	1 公益財団法人広島平和文化センター令和 2 年度事業実施状況報告 (4 月～8 月分) について (報告第 2 号) 2 公益財団法人広島平和文化センター評議員会の開催について (第 5 号議案)	終 了 原案可決

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審 議 結 果
令和 3 年 3 月 3 0 日	第 6 回	1 令和 3 年度公益財団法人 広島平和文化センター事業 計画及び収支予算について (第 6 号議案) 2 公益財団法人広島平和文化 センター基本財産の一部処分 について (第 7 号議案) 3 公益財団法人広島平和文化 センター評議員会の開催に ついて (第 8 号議案)	承認 原案可決 原案可決

(2) 評 議 員 会

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審 議 結 果
令和 2 年 4 月 1 日 (決議の省略)	第 1 回	1 理事の選任について (第 1 号・第 2 号議案)	選 任
令和 2 年 6 月 1 1 日 (決議の省略)	第 2 回	1 平成 3 1 年度公益財団法人 広島平和文化センター事業報 告について (報告第 1 号) 2 平成 3 1 年度公益財団法人 広島平和文化センター決算に ついて (第 3 号議案) 3 評議員の選任について (第 4 号議案)	終了 承認 選 任

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審 議 結 果
令和 2 年 6 月 2 2 日 (決議の省略)	第 3 回	1 令和 2 年度公益財団法人 広島平和文化センター収 支予算の補正について (第 5 号議案) 2 評議員の選任について (第 6 号議案)	承 認 選 任
令和 2 年 6 月 2 2 日 (決議の省略)	第 4 回	1 評議員の選任について (第 7 号議案)	選 任
令和 2 年 7 月 2 9 日 (決議の省略)	第 5 回	1 令和 2 年度公益財団法人 広島平和文化センター事 業計画の変更及び収支予 算の補正について (第 8 号議案)	承 認
令和 2 年 1 2 月 2 5 日 (決議の省略)	第 6 回	1 評議員の選任について (第 9 号議案) 2 理事の選任について (第 1 0 号議案)	選 任 選 任
令和 3 年 3 月 3 0 日	第 7 回	1 令和 3 年度公益財団法人 広島平和文化センター事 業計画及び収支予算について (第 1 1 号議案) 2 公益財団法人広島平和文化 センター基本財産の一部処分 について (第 1 2 号議案) 2 理事の選任について (第 1 3 号議案)	承 認 原案可決 選 任

4 定款の変更

事業年度中の定款の変更はない。

5 職員の状況

令和3年3月31日現在の職員の状況は、次のとおりである。

(単位：人)

区 分	局 長 級	部 長 級	課 長 級	課 長 補 佐 級	係 長 級	主 事	非 常 勤	計
総 務 課		1		1	4	2	1 5	2 3
施 設 課				1	2	1		4
平 和 連 帯 推 進 課			1		2	1		4
平 和 首 長 会 議 ・ 2020 ビジョン推進課			1	1		1 0	2	1 4
国 際 交 流 ・ 協 力 課		1		1	2	4	6	1 4
学 芸 課	1	1		1	2	8	7	2 0
啓 発 課			1	1	1	7	2	1 2
国 際 会 議 場	1			1	3	2	4	1 1
国立広島原爆死没者 追悼平和祈念館	1			2		6	6	1 5
計	3	3	3	9	1 6	4 1	4 2	1 1 7

(注) 局長級に平和記念資料館長、国際会議場館長及び国立広島原爆死没者追悼平和祈念館長を、部長級に総務部参事、国際交流・協力担当部長及び平和記念資料館副館長(学芸課長事務取扱)を、課長補佐級に主幹、国際会議場副館長及び国立広島原爆死没者追悼平和祈念館副館長を、係長級に主査、主任、主任学芸員及び国際会議場館長代理を、主事に学芸員をそれぞれ含む。

6 事業の実施状況等（決算額の一部は人件費を含む）

I 事業の実施状況

（1）公益目的事業1（平和推進事業）

ア 被爆体験継承普及事業

（7）修学旅行生への被爆体験講話等（決算額：1,252万8千円）

- a 被爆の実相を次の世代に正しく伝え、平和意識の高揚を図るため、修学旅行生を始めとする国内外からの来訪者などを対象に、学校等からの依頼を受けて、被爆体験証言者による被爆体験講話や原爆記録ビデオ等の上映を行った。また、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、ウェブ会議システムを利用した講話を実施した。

・被爆体験講話等実施件数

区 分	件 数	参 加 人 数
小 学 校	243 (222) 件	16,847 (15,381) 人
中 学 校	85 (79)	9,147 (8,654)
高等学校	35 (31)	4,154 (4,034)
そ の 他	36 (30)	1,344 (938)
計	399 (362)	31,492 (29,007)

※（ ）内は財団委嘱の講師による被爆体験講話で内数

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和2年4月～6月は休止

※ 夏休み期間中の事前予約不要かつ無料での講話の開催については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止

- b 被爆者の記憶に残る被爆当時の光景を後世に残すとともに、若い世代への被爆体験の継承を図るため、証言者と高校生が共同で「原爆の絵」を制作し、完成した作品を被爆体験講話等に活用することになっている。

・制作協力校：広島市立基町高等学校

・制作数：19作品（令和3年夏に完成予定）

（イ）ヒロシマ・ピース・ボランティア事業（決算額：103万2千円）

被爆体験継承の推進を図るため、広島平和記念資料館の展示や平和記念公園内の慰霊碑等のボランティアによる解説を行った。

- ・ボランティア登録者数：227人（令和3年3月31日現在）

- ・活動実績

- ① 館内移動展示解説：新型コロナウイルス感染症拡大の影響により休止

- ② 公園内移動解説：471団体（3,456人）

- ※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和2年4月～6月、令和2年12月14日～令和3年2月7日は休止

(ウ) 被爆者証言ビデオの制作（決算額：119万9千円）

被爆の実相を国内外の次の世代に継承するため、広島県内在住の被爆者の証言映像を記録し、保存する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大により、高齢被爆者への感染の恐れがあったため、今年度は新規制作を見送った。

このため、これまでに制作したビデオのテキスト化・整文化や、所蔵する被爆証言のビデオのデジタル化を行い、複製したDVD等の貸出しやインターネット上での公開などを行った。

- ・ビデオのテキスト化・整文化：11本

- ・ビデオのデジタル化：72本

(エ) 被爆体験証言者交流の集いの運営（決算額：3万7千円）

被爆体験継承活動を行っている団体の活動に資するため、交流の集いを開催し、団体相互の情報交換等を行った。

- ・期 日：令和3年3月18日（木）

- ・場 所：広島平和記念資料館地下1階 会議室2

(オ) 平和文化センターインターンシップ事業（決算額：2万3千円）

国内の学生を実習生として受け入れ、広島平和記念資料館等での就業体験を通して、被爆地ヒロシマについて理解を深めてもらった。

- ・受入人数：4人（大学生）

- ・受入期間：4日／人

(カ) ヒロシマ・ピースフォーラムの開催（決算額：57万2千円）

市民に、平和の原点としてのヒロシマを見つめ直し、原爆や平和について

考え、どのように行動していけばよいかを探究する機会を提供するため、広島市立大学と連携し、連続講座を開催した。

- ・期 間：令和２年１０月～１２月（土曜日、全５回）

※ 第６回は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止

- ・場 所：広島平和記念資料館 ほか
- ・対象者：１８歳以上で広島市内に在住又は通勤・通学している人
- ・受講者：６０人（広島市立大学の学生１８人を含む。）

(㌥) 国内原爆写真展用資料の普及・活用（決算額：76万4千円）

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、原爆写真展を開催する国内の学校や各種平和団体、自治体等へ原爆写真ポスター・パネルの貸出しを行った。

貸出資料	点数
原爆写真ポスター	79点
原爆写真パネル	38
計	117

(㌦) 中・高校生ピースクラブの開催（決算額：49万7千円）

中・高校生を対象に、平和の推進を目指して取り組む力を養い、人材の育成を図るため、被爆の実相等を学ぶ講座やワークショップなどの学習の場を提供した。

- ・期 間：令和２年５月～令和３年３月（全９回）
- ・場 所：広島平和記念資料館など
- ・内 容：① 広島平和記念資料館の見学、平和記念公園内の碑めぐり
② 被爆体験講話及び被爆体験伝承講話の聴講
③ 長崎青少年ピースボランティアとのオンライン平和学習
④ 県内日帰り研修
- ・参加者：中学生・高校生（２４人）

※ 公募したボランティア（１８歳以上の９人）が、事業全般をサポートした。

(ケ) 平和学習講座（決算額：20万円）

被爆の実相や核兵器廃絶への取組などについての理解を深めるとともに、自ら平和活動に取り組む意識を醸成するため、講師を小・中・高等学校等に派遣し、平和学習を実施した。また、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、ウェブ会議システムを利用した講座を実施した。

・登録講師：9人（令和3年3月31日現在）

派遣先	回数
小・中・高等学校	58回
その他	5
計	63

(ク) 平和記念資料館平和学習ワークブック等の作成（決算額：70万4千円）

修学旅行生等が、広島平和記念資料館の見学を通して、より効果的に被爆の実相を学び、平和を目指す自主的な取組につなげることができるよう、また、広島市への修学旅行誘致及び資料館入館者増加策の一助として、「広島平和記念資料館平和学習ワークブック」、「広島平和記念資料館学習ハンドブック」、「平和記念公園めぐり」を作成し、配付した。

・作成部数：ワークブック 小学生用 80,000部
ワークブック 中・高校生用 80,000部

(カ) 国内原爆展の開催（決算額：0円）

令和2年度は、東京オリンピック・パラリンピックに合わせた「ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展」を開催するため、本原爆展の開催は休止し、令和3年度の国内原爆展開催に向けて、開催候補地との協議や会場下見など必要な準備を予定していたが、同大会が新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和3年度に延期されたことに伴い、国内原爆展の準備業務も延期し、令和4年度の開催候補地の検討・調整を行った。

(キ) 原爆展・平和学習用資料の普及・活用（決算額：155万9千円）

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、国内の学校や各種平和団体、自治体等へ原爆展・平和学習用資料の貸出しを行った。

貸 出 資 料	点 数
D V D等映像資料	555 点
市民が描いた原爆の絵（複製）、ポスター、絵本セット等	369
計	924

(ス) 英語で伝えようヒロシマセミナー（決算額：10万2千円）

原爆被害の実相を正しく英語で伝えるため、被爆の概要及び英語での表現方法について学ぶ機会を提供する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンラインセミナーに変更して行った。

区 分	期 日	延参加人数
第1部	令和3年2月6日(土)	208人
第2部	令和3年2月13日(土)	189

(セ) 被爆体験伝承者による伝承講話の実施（決算額：256万6千円）

広島平和記念資料館において、来館者等を対象に、事前予約不要かつ無料で被爆体験伝承者による講話を定時開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。

学校等からの依頼に対しては、市内の会場に無料で被爆体験伝承者を派遣し、伝承講話を行った。また、新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、ウェブ会議システムを利用した講話を実施した。

区 分	件 数	参 加 人 数
日本語での講話	104 件	10,774 人
英語での講話	5	219
計	109	10,993

(ソ) 平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化（決算額：1,585万7千円）

- a 実物資料の活用を重視している広島平和記念資料館本館の展示について、被爆資料等の劣化を防ぐとともに、収蔵資料の活用を図るため、資料の入替を実施した。

また、所蔵フィルムのデジタルデータ化、貸出しのための「定期入れ」のレプリカ作製、気密性の高い展示ケースの制作など必要な保存

措置を講じるとともに、収蔵庫や展示室の環境調査を行い、改善を図った。

b 国内外に広く発信するため、被爆者証言ビデオのテキストデータ化や多言語化を進め、順次ホームページでの公開や You Tube での配信を行った。

(㊦) 被爆資料の収集等の強化（決算額：107万8千円）

a 被爆資料の収集の強化

被爆者やその遺族に対して、被爆状況の調査及び聴き取りを行い、資料の寄贈を呼び掛けるとともに、国内外の博物館・図書館等が所蔵する被爆関連写真や文献の調査・収集を行った。

また、歴代館長が収集した資料や海外で収集した資料等のうち、未整理となっている資料の精査を行った。

b 海外博物館とのネットワークの強化

米国・ハワイ州での「ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展」（P21(キ)参照）の開催に合わせて、平和をテーマとした博物館等を訪問し、今後の連携の可能性について協議を行う予定であったが、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響により米国訪問は中止し、次のとおり令和元年度に訪問した博物館とのネットワークを強化した。

- ・全米日系人博物館（ロサンゼルス市）及び戦艦ミズーリ記念館（ホノルル市）と共同でオンライン座談会を実施
- ・米国の核実験博物館（ラスベガス市）、ハワイ州の大学及び高校と「ウェブ会議システムによる海外への被爆体験証言」（P20(エ)）の一環として被爆体験証言を実施

(㊦) 平和記念資料館ボランティアスタッフ活動支援事業（決算額：209万6千円）

広島平和記念資料館の各種事業に携わるボランティアスタッフ等の資質の向上を図ることにより、来館者に被爆の実相等を正確かつ効果的に伝えるため、体系的な研修を一元的かつ継続的に実施した。

- ・対 象：被爆体験証言者、ヒロシマ・ピース・ボランティア、平和学習講座講師、被爆体験伝承者など

- ・内 容：総合研修（４回）、英語研修（１５８回）、接遇研修（３回）、ウェブ会議研修（４０回）
- ・参 加 者：延べ１，２３３人

(ツ) 広島平和記念資料館の企画展の実施（決算額：３４０万５千円）

常設展示を補完するとともに、再来館の動機づけとするため、また、未公開資料の活用及び資料館の調査・研究成果発表の機会とするため、企画展を年２回開催した。

令和２年度は被爆７５年企画展として、広島平和記念資料館のあゆみの展示を１年間にわたり２部構成で行った。

【第１回】

- ・テーマ：「被爆７５年企画展 広島平和記念資料館のあゆみ
第一部 礎を築く ―初代館長 長岡省吾の足跡」
- ・期 間：令和２年７月２２日（水）～令和３年２月２３日（火）

【第２回】

- ・テーマ：「被爆７５年企画展 広島平和記念資料館のあゆみ
第二部 ８月６日へのまなざし ―資料を守り伝え続ける」
- ・期 間：令和３年２月２７日（土）～令和３年７月１８日（日）

(テ) ユースピースボランティア事業（決算額：１２万３千円）

次代を担う広島府の青少年自らが、平和の大切さを学ぶとともに、海外からの訪問者にヒロシマの心を伝える機会を提供するため、平和記念公園を訪れる外国人に対して被爆の実相を英語で伝えるボランティアガイドを育成し、その活動を支援した。

- ・活動人数：２６人（高校生１９人、大学生７人）
- ・活動実績
 - ① 被爆の実相や異文化理解等の事前研修の受講 ７回
 - ② 平和記念公園を英語で紹介する動画の作成

(ト) 東京オリンピック・パラリンピックに合わせたヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展の開催（決算額：１４万３千円）

国内外から多くの人を訪れる東京２０２０オリンピック・パラリンピック競技大会開催の機会を捉えて、被爆の実相を伝え、核兵器廃絶の国際世論を醸成するため、令和２年７月～９月に東京都文京区及び千代田区、埼玉県飯

能市において原爆・平和展を開催する予定であったが、同大会が令和3年に延期されたことに伴い原爆・平和展も延期したため、令和2年度は開催候補地との協議や会場下見など、必要な準備を行った。

(ナ) 平和・戦争に関する博物館等とのネットワーク（決算額：0円）

国内の平和・戦争に関する博物館等が毎年開催する日本平和博物館会議は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、予定されていたひめゆり平和祈念資料館での開催が中止となり、書面により資料・情報交換を行った。

(ニ) 展示・収蔵資料等の調査研究（決算額：105万2千円）

広島平和記念資料館資料調査研究会の会員が、常設展示の一部見直しや企画展開催のための基礎データを蓄積し、博物館機能の強化を図るため、展示環境の調査及び改善等の提案、原爆の放射線、被爆者の記憶などについて、調査研究を行った。

- ・テーマ：「原爆記録映画『広島・長崎における原子爆弾の影響』と相原秀二資料のアーカイブズ学的研究」、「旧町丁界並びに旧水涯線の復元」、「原爆体験の記憶とトラウマ『市民が描いた原爆の絵』を手がかりに」など8件

(ヌ) 第10回国際平和博物館会議の開催（決算額：0円）

世界の様々な平和博物館との交流を深め、調査研究や展示などの事業の質的向上を図るため、平和のための博物館国際ネットワークに加盟している各国の平和博物館会議等の関係者が参加する、第10回国際平和博物館会議を立命館大学と共催で開催し、広島では被爆75年事業として基調講演等のプログラムを実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンライン開催となり、広島を訪問するプログラムは中止となった。

イ 平和意識高揚事業

(ア) こども平和キャンプの開催（決算額：0円）

平和意識の高揚を図るため、小学校4年生から中学校3年生までを対象に被爆の実相や平和の大切さについて学ぶ場を提供する予定だったが、新型コ

コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。

(イ) ひろしま子ども平和の集い（決算額：65万4千円）

若い世代の平和意識の高揚と主体的な取組の促進を図るため、平和記念式典への参列等を目的に広島を訪れる青少年と広島の青少年が、平和へのメッセージの発表や意見交換を行うイベントを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。

＜代替事業＞

広島市内外の青少年から平和への思いを込めたメッセージを集め、「子どもたちの平和のメッセージ展」として平和記念公園内に展示した。

- ・期 日：令和2年8月6日(木)
- ・場 所：平和記念公園（平和記念資料館本館下ピロティ）
- ・参加団体数：60団体

(ウ) こどもたちの平和文化活動支援事業（決算額：145万6千円）

小・中学生による多様な平和文化活動を奨励し、その活動を活性化させることにより、子どもたちの平和意識の高揚を図った。

- ・参加者数：4,675人
- ・内 容：平和文化活動（絵画、習字、作文、俳句、標語、工作など）を行った学校からの申請により、参加者全員に記念品を贈呈する。

(エ) 機関紙の発行等（決算額：366万8千円）

- a 本財団が行う平和や国際交流・協力への取組を紹介するため、和文・英文機関紙を発行するとともに、事業報告「平和と交流 2020年版（平成31年度事業）」を作成し、ホームページに掲載した。

区 分	発行回数・部数	配 布 先
和文機関紙 「平和文化」	3回 各6,000部	有識者、平和関係団体、国公立図書館、大学図書館、国際交流・協力団体、登録ボランティア、本財団理事・評議員・専門委員・会員、海外友好パートナー、海外姉妹・友好都市、広島市関係機関、広島市内小・中・高・大学等

英文機関紙 「PEACE CULTURE」	2 回 各 2,000 部	海外の有識者、海外平和関係機関、海外 友好パートナー、海外姉妹・友好都市、 海外軍縮NGO、国内国際交流・協力団 体、翻訳ボランティア、在日大使館等
-----------------------------	------------------	---

- b 本財団の活動に関する情報等をインターネットを活用して適宜提供した。
・ホームページアクセス件数：150, 191 件

- c 日本平和学会春季研究大会に出席し、平和研究の最新の成果を学ぶともに、学会員との交流を深める予定であったが、オンライン開催となった。
・期 日：令和2年5月30日(土)・31日(日)

(オ) 平和宣言の発信（決算額：162 万 2 千円）

核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成し、核保有国の政策変更につなげるため、平和宣言を国内外に発信した。

- ・内 容：① 平和宣言文パネル(和文、英文)の作成、掲示
- ② 平和宣言読み上げの動画の作成及び広島市ホームページでの発信（日本語、英語）
- ③ 外国語 8 か国語（スペイン語、フランス語、ロシア語、中国語、アラビア語、ドイツ語、ハンガール語、ポルトガル語）による平和宣言文の作成及び広島市ホームページでの発信
- ④ 平和宣言文の作成、配付及び送付
(和文：9,000 部、英文：3,000 部、和英文：2,600 部、点字：225 部)

(カ) 広島平和記念資料館ホームページ及びデータベースの管理・運用（決算額：1,471 万 6 千円）

a 広島平和記念資料館ホームページ

核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を世界に訴え、国際世論を醸成していくため、広島平和記念資料館のホームページで、原爆・平和に関する情報を発信した。

- ・アクセス件数：852, 513 件
- ・内 容：資料館の利用案内、展示内容の紹介、平和宣言の発信等

b データベース

原爆・平和に関する資料をデータベース化して管理し、一部をインターネットで公開した。

- ・公開件数：97, 194件
- ・内 容：資料館が所蔵・管理する被爆資料、写真、絵、動画など

(㌵) 情報資料室の管理運営（決算額：245万9千円）

平和文化の普及・高揚と被爆体験の継承を図るための調査・研究の場として、原爆・平和に関する資料・情報の収集、保存を行い、市民等の閲覧に供した。

- ・利用者数：4,321人
- ・資料展の開催
 - ① 「この世界の（さらにいくつもの）片隅に 広島のスズさん展」
期間：令和2年6月1日(月)～令和3年3月24日(水)
 - ② 「紙芝居 はだしのゲン 複製原画展」「青葉したたる 平和大通りの
できるまで」
期間：令和3年3月31日(水)～令和3年7月中旬(予定)

(㌶) 広島平和記念資料館の発信力の強化（決算額：149万9千円）

広島平和記念資料館が You Tube で公開している英語字幕付被爆者証言ビデオの作成を推進することにより、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で広島を訪れることが困難な方々に被爆の実相に触れる機会を提供した。

- ・英語字幕付被爆者証言ビデオの作成：20本

ウ 国際平和推進事業

(㌺) 国際平和シンポジウムの開催（決算額：4万6千円）

市民の平和意識の高揚と国内外への平和メッセージの発信を目的に、朝日新聞社との共催により、広島市と長崎市で隔年交互に同シンポジウムを開催しており、今年度は長崎市での会議に出席した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、一般傍聴者は募らず海外の登壇者とはオンラインでつなぎ、その模様はライブ配信された。

- ・期 日：令和2年8月1日(土)
- ・場 所：長崎原爆資料館ホール

- ・参加者数：約 80 人

(イ) 国連軍縮フェローズの受入れ（決算額：0 円）

国連が軍縮専門家の育成を目的に主催する「国連軍縮フェローシップ・プログラム」を支援するため、各国外交官等の研修生（フェローズ）を受け入れ、被爆の実相等について理解を深めてもらう研修を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。

(ウ) 中国人民平和軍縮協会との交流（決算額：0 円）

中国の平和・軍縮分野の N G O である中国人民平和軍縮協会との交流を深めるため、訪中団を派遣し、被爆の実相とともに、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を伝える予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。

(エ) ウェブ会議システムによる海外への被爆体験証言（決算額：36 万 8 千円）

海外の人々に被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成するため、ウェブ会議システムによる被爆体験証言を行った。

- ・実施回数：5 か国 14 都市・23 回
- ・聴講者数：1, 295 人

(オ) ピースナイターの開催（決算額：10 万円）

市民等の平和意識の喚起を図るため、広島東洋カープの試合の場を活用して、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けたメッセージを発信する「ピースナイター」を生活協同組合ひろしま等との共催により実施した。

- ・期 日：令和 2 年 8 月 7 日(金)
- ・場 所：MAZDA ZOOM-ZOOM スタジアム広島（広島市民球場）
- ・内 容：① 大型ビジョンでの市長等のビデオメッセージ放映
② 広島東洋カープの監督、選手等のユニフォームへのピースワッペンの装着

(カ) 国外原爆写真展用資料の提供（決算額：44 万 9 千円）

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、原爆展の開催や平和学習の実施に取り組む世界各地の自治体、N G O、学校、個人等に対し、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター及び映像資料等の貸出・提供を行った。

〔ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスターの貸出・提供〕

区 分	点数	国・地域数
英語版	2 点	2 か国・地域

〔映像資料等の貸出・提供〕

区 分	点 数
映像資料（D V D）	9 点
ポスター用データ等	9
計	18

(4) ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展の開催（決算額：942 万 5 千円）

a ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展

被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成するため、海外の主要都市において原爆・平和展を開催した。

〔米国・ホノルル市〕

- ・期 間：令和 2 年 8 月 1 3 日(木)～令和 3 年 2 月 2 7 日(土)
- ・場 所：ホノルル市 戦艦ミズーリ記念館
- ・内 容：被爆の実相を伝える写真パネル・被爆資料等の展示、被爆体験講話、被爆体験記の閲覧等
- ・入場者：約 1 3, 5 0 0 人

〔米国・ハワイ郡ヒロ町〕

- ・期 間：令和 2 年 1 2 月 7 日(月)～令和 3 年 2 月 2 7 日(土)
- ・場 所：ハワイ郡ヒロ町 ハワイ大学ヒロ校
- ・内 容：被爆の実相を伝える写真パネル・被爆資料等の展示、被爆体験講話、被爆体験記の閲覧等
- ・入場者：約 1, 0 0 0 人

b N P T 再検討会議にあわせた原爆展

N P T 再検討会議の開催年であることから、日本原水爆被害者団体協議会との共催により、米国・ニューヨーク市で原爆展を開催する予定であったが、同会議の延期に伴い原爆展も延期した。

(5) 「広島・長崎講座」設置協力プログラム（決算額：7 万円）

被爆の実相や被爆者の核兵器廃絶への願いを若い世代に継承するため、国

内外の大学・大学院の講座で、広島及び長崎における被爆体験の持つ意味を学術的に考察・検証し、伝えるものを「広島・長崎講座」として認定するとともに、その普及を図った。

また、広島で平和学習を実施した大学への被爆体験証言聴講の機会の提供など、講座の充実に向けた協力を行った。

- ・認定大学数：国内 51 大学、国外 24 大学（令和 3 年 3 月 31 日現在）

(ケ) 国連見学ツアーガイド等のヒロシマ研修（決算額：58 万 7 千円）

常設の原爆展を開設している国連の見学ツアーガイド等を広島に招へいし、被爆の実相を理解するための研修を実施するとともに、被爆体験証言者及び職員を国連に派遣し、より多くのツアーガイドの研修を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により招へい・派遣を見合わせ、研修プログラムの一部をオンラインで実施した。

- ・実施日：令和 2 年 12 月 7 日、8 日、11 日
- ・内 容：① 広島平和記念資料館ツアー
② 広島市立大学広島平和研究所教授による講義
③ 被爆体験講話の聴講
- ・受講者：延べ 134 人

(コ) 平和首長会議の運営（決算額：695 万 9 千円）

加盟要請や加盟都市間の情報共有等の平和首長会議の運営を通じて、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた国際世論の醸成を図った。

- ・内 容：① 未加盟都市への加盟要請
② 加盟都市の活動情報の収集及びホームページやフェイスブック、ツイッターでの公表
③ 加盟都市への広島市・長崎市の平和宣言文の送付
④ 月刊メールマガジンの発行
⑤ 平和首長会議情報システムの運用保守 等
- （平和首長会議加盟都市数：165 か国・地域 8,019 都市）
（令和 3 年 3 月 1 日現在）

(サ) 2020 ビジョンキャンペーンの展開（決算額：2,850 万 3 千円）

平和首長会議加盟都市の市民、NGO 等と連携して、2020 年までの核兵器廃絶を目指す行動指針「2020 ビジョン（核兵器廃絶のための緊急行

動)」及びその具体的な取組を定めた「平和首長会議行動計画（２０１７年－２０２０年）」に基づき、同ビジョンキャンペーンの世界的な展開を図った。

a ２０２０年NPT再検討会議への出席

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和３年８月（予定）に延期

b サッカーを通じた平和意識の醸成

- ・ 期日：令和２年８月９日（日）
- ・ 場所：エディオンスタジアム広島

c 第１０回平和首長会議国内加盟都市会議総会の開催

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和３年８月（予定）に延期

d 核兵器禁止条約の早期締結を求める署名活動の展開

- ・ 署名数：約３１１万筆（令和３年３月１日現在累計）

e 平和首長会議加盟都市等への被爆樹木の種・苗木の配付

- ・ 配付実績：（国内）１２都市
（海外）４か国・１３都市

f 次代を担う青少年を中心とした市民の平和意識の啓発

平和首長会議加盟都市による「平和を希求する心を育てる取組」の好事例をメールマガジンやホームページで紹介するとともに、子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテストを実施した。

子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト２０２０

- ・ 募集時期：令和２年４月１０日（金）～１１月２０日（金）
- ・ 参加国数・都市数：１９か国９９都市
- ・ 応募総数：３，１２２点

〔 ６歳～１０歳の部：２，１６１点
１１歳～１５歳の部： ９６１点 〕

g メッセージビデオ“*No more Hiroshima! No more Nagasaki!*”の配信

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により広島を訪問することが困難な状況の中、多くの人に核兵器廃絶への思いを共有してもらうためにメッ

セージビデオを作成・配信した。

- ・配信開始：令和2年7月20日(月)

- ・出演者：広島市・長崎市の被爆者や市長、国連、各国政府、N G O、平和首長会議役員都市の代表等23名

h 平和教育ウェビナー（オンラインでのセミナー）の開催

核兵器を巡る世界情勢に係る講演、広島の青少年(ユースピースボランティア)及び長崎の青少年(ナガサキ・ユース代表団)のほか5つの加盟都市の青少年が行っている平和活動の報告等をオンラインで配信した。

- ・期日：令和2年8月4日(火)

i 青少年ピースキャンドルの集いの開催

核兵器禁止条約の発効が確定したことを受けて、広島で平和活動を行っている青少年がキャンドルの火を灯しながら慰霊碑を参拝し、原爆死没者に対して報告するとともに、今後も遺志を引き継ぎ核兵器のない平和な世界を築くために活動していくことを誓うイベントを実施した。

- ・期日：令和2年10月25日(日)

j シンポジウム「核兵器禁止条約と市民社会の果たす役割」の開催

核兵器禁止条約の発効が確定したことを受けて、平和首長会議、ピースボート、特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima が共同でシンポジウムを開催し、その動画を平和首長会議のウェブサイトで公開した。

- ・期日：令和2年11月3日(火)

k 核兵器禁止条約発効記念行事「核なき世界へスタート！」の開催

核兵器禁止条約が発効したことを受け、広島・長崎・東京の3都市をオンラインで繋ぐ記念行事「核なき世界へスタート！」を平和首長会議と市民団体が協働して開催し、今後も共に核兵器のない世界を目指し邁進していくことを誓い合った。

- ・期日：令和3年1月23日(土)

l 青少年による平和活動報告会の開催

広島で平和活動を行っている青少年が集い、日々の活動についての発表や意見交換をすることによって互いの活動を学び合い、今後の活動への意欲を高めてもらうことを目的とした報告会を実施した。

また、多くの人に広島の青少年の活動を知ってもらうため、その動画

を平和首長会議のウェブサイト等で発信した。

- ・期日：令和３年３月１３日（土）

(シ) 平和首長会議の体制強化（決算額：３１万２千円）

海外の各地域グループを管轄するリーダー都市が主催する会合等に出席するとともに、その近隣のリーダー都市を訪問して意見交換等を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により派遣は中止し、各国大使館訪問等を通じて、各地域での加盟拡大の協力を依頼し、体制の強化を図った。

① 平和記念式典に合わせた広島訪問

※ 受入れを中止

② 第８８回全米市長会議年次総会への出席

・期間：令和２年６月２２日（月）～７月１日（水）

・場所：米国・オースティン市

※ オンライン開催となったため、平和首長会議代表団の派遣は中止し、専門委員のみ参加した。

③ 駐日大使館訪問

各国駐日大使館を訪問し、平和首長会議の概要説明及び取組紹介を行うとともに、各国内における未加盟都市に対する加盟呼び掛けへの協力を要請した。

訪問日	訪問大使館
① 令和２年１０月１３日（火）～１５日（木）	アルゼンチン、ノルウェー
② 令和２年１１月２４日（火）～２６日（木）	ニュージーランド、パラグアイ、モンゴル、タイ、インドネシア、ガーナ

(ス) 平和首長会議インターンシップ（決算額：０円）

海外の平和首長会議加盟都市の若手職員等をインターンとして招へいし、平和首長会議事務局の業務に従事してもらうことにより、業務の充実及び加盟都市との連携強化を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。

(セ) 青少年「平和と交流」支援事業（決算額：87万5千円）

平和首長会議の国内外の加盟都市の青少年が、被爆者の体験や平和への思いなどを学び、交流を深めるため、広島市等が主催する3つの事業に参加してもらい、これに併せて平和首長会議の取組説明や意見交換会等のプログラムを実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により1事業のみ実施した。

事業への派遣元加盟都市では、参加者が報告会等を行い、平和施策のより一層の充実を図っている。

実施した事業名 (主催)	事業の対象者	国内	都市
ヒロシマ平和行政実務 者研修 (広島平和文化センタ ー) 期間：3/18～3/19 (2日間)	国内加盟都市 の若手職員	13人	旭川市、栃木市、国立市、 多摩市、横浜市、寒川町、 富士宮市、綾部市、豊中 市、姫路市、加西市、長崎 市、鹿児島市

(「HIROSHIMA and PEACE」と「ひろしま子ども平和の集い」は中止となった。)

(ソ) NPT再検討会議等への高校生派遣事業（決算額：0円）

核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた平和活動を担う次代のリーダーの育成を図るため、2020年NPT再検討会議に高校生を派遣し、核兵器を巡る国際情勢を学ぶとともに、ヒロシマのメッセージを発信してもらう予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により会議開催の明確な見通しが立たないため派遣を中止した。

(タ) 第10回平和首長会議総会の開催（決算額：157万8千円）

平和首長会議が加盟都市やその市民、NGO等と連携しながら核兵器のない平和な未来を創造するために何をしていくべきかについて、各加盟都市代表が一堂に会して審議し、2021年以降の新たなビジョン及び行動計画を策定する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期した。

エ 施設の管理運営

(7) 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の管理運営（決算額：3億357万4千円）

厚生労働省からの受託事業として追悼平和祈念館の管理運営を行った。

・入館者数：69,413人

（平成14年8月の開館以降の入館者数：4,662,231人）

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年4月1日～5月31日、令和2年12月14日～令和3年2月7日は臨時休館

a 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開

原爆死没者の氏名・遺影を登録し、館内で公開した。

・原爆死没者氏名・遺影の登録状況（令和3年3月31日現在）

氏名・遺影	氏名のみ	計
21,624人	2,815人	24,439人

b 被爆体験記の収集・整理・公開

被爆体験記を収集・整理（データベース化）し、館内で公開した。

・被爆体験記の収集・整理状況（令和3年3月31日現在）

区 分	収集数	整理数	進捗率
厚生省収集分被爆体験記(H7)	81,205編	81,205編	100.0%
厚生労働省収集分被爆体験記(H17)	11,778	11,778	100.0
厚生労働省収集分被爆体験記(H27)	11,329	4,682	41.3
独自収集分被爆体験記	3,435	3,435	100.0
図書（被爆体験記集等）	(5,313冊)	39,895 (2,902冊)	(54.6)
計	—	140,995	—

(注) 1 厚生省・厚生労働省収集分被爆体験記：厚生省（当時）・厚生労働省が各年度に実施した「原子爆弾被爆者実態調査」に併せて収集した被爆体験記をいう。

2 独自収集分被爆体験記：平成9年度以降、独自に収集した被爆体験記をいう。

c 企画展の開催

被爆の実相をわかりやすく伝えるため、企画展を開催した。

企画展のテーマに沿って、所蔵する被爆体験記や追悼記を選び出し、タッチスクリーンの端末により多言語（日・英・中・韓）で紹介するとともに、約30分の映像作品を制作し、館内で上映した。この映像作品は、ホームページで公開するとともに、平和学習資料（DVD）として貸出しを行った。

① テーマ「時を超えた兄弟の対話 ― ヒロシマを描き続けた四國五郎と死の床でつづった直登の日記 ―」

- ・ 期 間：令和2年1月1日(水)～令和3年2月28日(日)
- ・ 内 容：最愛の弟・直登を原爆で失ったことがきっかけで、画家としての才能を、反戦・核兵器廃絶を訴えることに全て捧げた四國五郎。企画展では、被爆当日から亡くなる前日まで、病床でつづられた弟・直登の日記を中心に、兄・五郎の追悼文や作品を紹介しながら、時を超えた2人の対話を再現した。

② テーマ「わが命つきるとも ― 神父たちのヒロシマと復活への道 ―」

- ・ 期 間：令和3年3月1日(月)～令和4年2月28(月)
- ・ 内 容：被爆当日、イエズス会の幟町教会（爆心地から約1.2キロ）にいた4人の外国人神父たちの被爆後の状況を克明に描いた体験記等を通して、ヒロシマの復活への道をたどる。

d 被爆者証言ビデオの制作

被爆の実相を国内外の次の世代に継承するため、広島県外在住被爆者の証言映像を収録し、保存するとともに、館内やインターネット上で公開した。

- ・ 県外在住被爆者収録者数：5人
（京都府1人、大阪府1人、兵庫県3人）

e 被爆体験記の朗読事業

- (a) 若い世代へ被爆体験を継承するため、修学旅行などで広島を訪れた児童生徒を対象に被爆体験記（原爆詩を含む。）の朗読会を開催した。

また、広島市内の学校等へ出向く出前朗読会や、来館者が予約なしで参加できる定期朗読会も開催した。

- ・朗読会開催回数：50回

- ※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により4月～6月は休止

(b) 独自で被爆体験記朗読会を希望する団体等へは、朗読セットの貸出しを行った。

- ・朗読セット貸出件数：11件

f 広島平和学習セミナーの開催

平和学習を目的として多くの修学旅行生に来館してもらうため、広島市と広島市教育委員会が共同で行う「平和学習講習会」において、学校関係者等に対し、伝承講話・朗読会の実演を行うなど被爆体験継承の取組を説明する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

g 被爆体験記執筆補助

高齢などにより一人では執筆が困難な被爆者を対象に、被爆体験の聞き取りや代筆を行い、被爆体験記の収集数の増加を図った。

- ・聞き取り人数：6人（広島県内在住の被爆者を対象に公募）

h 多言語化対応事業

海外から来館する多くの人に、被爆の実相を母国語で伝えるため、被爆者証言ビデオの翻訳字幕の作成、被爆体験記の翻訳を行った。

- ・証言ビデオ

- 翻訳字幕付本数：10言語15本〔累計：23言語1,298本〕

- ・被爆体験記

- 翻訳編数：4言語24編〔累計：24言語1,249編〕

- ※ リーフレットについては現在21言語を作成

i 被爆体験伝承者等派遣・語学研修

次世代へ被爆体験を伝承するため、被爆体験伝承者や被爆体験記朗読ボランティアを市外に派遣した。さらに、令和2年度12月からは、被爆体

検証言者の派遣を開始した。

また、被爆体験伝承者及び被爆体験記朗読ボランティアには英語実技研修を行った。

- ・証言講話実施回数： 28回
- ・伝承講話実施回数：202回
- ・朗読会実施回数： 20回

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和2年4月～6月は休止

j インターネットによる情報提供

事業内容をホームページで紹介するとともに、保有する被爆体験記及び被爆者証言ビデオを掲載して広く情報提供し、被爆の実相を伝えた。また、スマートフォンやタブレット端末の普及、国内外の閲覧者からの要望、セキュリティの強化等に対応するため、ホームページを全面的にリニューアルした。

- ・アクセス件数：祈念館ホームページ 1,001,139件
平和情報ネットワーク 3,978,834件

k 情報展示システムの保守・管理

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性の確保を図るため、情報展示システムの保守・管理を行った。

また、次期（令和5年度）の情報展示システム機器更改に向け、外国人来館者数の増加や情報テクノロジーの進展に対応した展示手法の見直し等を内容とする「情報展示システム機器更改・展示整備基本計画」を策定した。

l 施設の管理等

空調設備の大規模修繕や監視カメラの更新、照明のLED化など、各種設備機器の保守管理をはじめとする施設の管理運営を行った。

(イ) 広島平和記念資料館の管理運営（決算額：3億1,968万2千円）

平成30年度から4年間、広島市から指定管理者の指定を受けており、施設及び設備機器の管理運営を行った。

・入館者数

区 分	入館者数	内 訳	
		個 人	団 体
大 人	210,154 人	196,403 人	13,751 人
小 人	118,436	29,489	88,947
計	328,590	225,892	102,698

・「新着資料展」の開催（自主事業）

新たに寄贈された資料を紹介するため、新着資料展を開催した。

期間：令和３年３月２６日（金）～令和４年３月（予定）

場所：東館地下１階 特別展示室

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和２年４月１日～５月３１日、令和２年１２月１４日～令和３年２月７日は臨時休館

※ 令和３年２月２４日～２６日は、本館展示資料入替に伴う臨時休館

(ウ) 広島平和都市記念碑（原爆死没者慰霊碑）の維持管理（決算額：28万9千円）

(2) 公益目的事業２（国際交流・協力事業）

ア 国際交流・協力推進事業

(7) 国際交流・協力事業への助成（決算額：35万6千円）

市民レベルの国際交流・協力の推進を図るため、広島市内で活動している市民団体が、自主的に企画・実施する国際交流・協力事業に対して助成を行った。

区 分	助成団体数
国際交流・協力活動育成補助金 ※活動実績２年未満の団体を対象とした補助金	1 団体
国際交流・協力活動振興補助金 ※活動実績２年以上の団体を対象とした補助金	1
(国 外 事 業)	(0)
(市 内 事 業)	(1)

(イ) 国際交流ネットワークひろしまの運営（決算額：149万1千円）

広島市内の国際交流・協力活動団体等で構成する国際交流ネットワークひろしまを運営し、加入団体が活動しやすい環境づくりを進めた。

また、国際交流・協力課のホームページを活用し、加入団体の活動情報等を発信した。

- ・内 容：加入団体への情報提供、研修室・ボランティア活動コーナーの貸出し、ホームステイのあっせん等
- ・加入団体数：152団体（令和3年3月31日現在）
- ・ホームページアクセス件数：118,623件

(ウ) 国際フェスタの開催（決算額：168万3千円）

広島市内の国際交流・協力活動団体間の交流を促進するとともに、市民の関心を高めるため、「第21回国際フェスタ2020」を開催した。

- ・期 日：令和2年11月14日（土）、15日（日）
- ・場 所：広島国際会議場
- ・内 容：新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、文化体験コーナーやバザー等を中止するなど例年よりも規模を大幅に縮小して実施した。
 - ① オンライン配信による講演会（5団体）
 - ② JICA中国との共催講演会（オンラインでも配信）
「今、世界とつながる～中村哲さんの遺したもの～」
 - ③ ヒロシマ・メッセンジャーによる広島市姉妹・友好都市（6都市）の紹介
 - ④ 市民団体活動紹介動画の配信（11月1日（日）～30日（月））
国際交流・協力課のホームページ上に、主に市内で国際交流、国際協力活動を行う7団体の紹介動画を掲載
- ・主 催：本財団（国際交流・協力課、国際会議場）
- ・共 催：独立行政法人国際協力機構中国センター、公益財団法人ひろしま国際センター、広島市
- ・参加団体：14団体
- ・入場者数：延べ約350人

(エ)「姉妹・友好都市の日」の開催及び「ヒロシマ・メッセンジャー」の運営（決算額：27万円）

a 姉妹・友好都市の日「記念イベント」の開催

広島市が海外の6つの姉妹・友好都市ごとに設定した「姉妹・友好都市の日」に、市民参加の記念イベントを開催し、市民交流の一層の拡大と国際意識の高揚を図る予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、6都市すべての記念イベントを中止した。

＜代替事業＞

「第21回国際フェスタ2020」において、ヒロシマ・メッセンジャーによる広島市の姉妹・友好都市6都市の紹介を行った。

・期日：11月15日（日）

b ヒロシマ・メッセンジャーの募集・選考

「姉妹・友好都市の日」記念イベントの企画・立案・進行を担当するほか、学校の国際理解学習の講師等として活動する「ヒロシマ・メッセンジャー」を募集・選考した。

・募集期間：令和2年10月1日（木）～10月31日（土）

・選考人数：姉妹・友好都市ごとに2人、計12人

・任期：令和3年1月～12月

イ 国際化推進事業

(7) 国際交流員による国際交流事業の実施（決算額：3万2千円）

地域レベルでの国際交流・国際理解を促進するため、学校や広島市の関係機関が実施する国際交流・国際理解事業に、英国出身の国際交流員を派遣した。

・派遣回数：10回

また、国際交流員が市民からの質問や相談に応じる「国際交流員の相談日『Have a Natter!』」を実施し、7月からはオンラインによる相談も開始した。

・実施回数：15回（対面7回、オンライン8回）

・参加人数：延べ52人（対面延べ37人、オンライン延べ15人）

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年4月～5月、令和2年12月～令和3年1月は中止

(イ) 情報誌の発行（決算額：9万8千円）

外国人のための生活・文化情報誌「HIRO CLUB NEWS」を作成・配布し、広島での生活に役立ててもらった。また、これらの情報をインターネットでも提供した。

・発行数

① 英語版（月2回発行）

1回当たり約100部（1日号約20ページ、15日号3ページ程度）

② 中国語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語版（月1回発行）

1回当たり各言語約50部（約15ページ）

[掲載情報]

広島市広報紙「ひろしま市民と市政」掲載記事の抜粋、広島平和文化センターからのお知らせ、市内公共施設のイベント情報、コンサート・美術館情報等

・配布先：県内国際交流団体、日本語教室、広島市関係機関等

(ウ) 国際交流・協力団体との連携（決算額：23万6千円）

広島地域の国際交流・協力事業の連携・調整を図るため、公益財団法人ひろしま国際センター等関係機関との連絡会議や地域国際化協会の研修会等に参加するとともに、二国間団体の運営に対する助言などを行った。

(エ) 通訳ボランティアの研修・派遣事業（決算額：30万8千円）

日本語での会話が困難な外国人市民の生活を支援するため、通訳ボランティアを募集・登録し、必要な研修を行うとともに、要請に応じて保育園や学校などに派遣した。

・派遣件数：36件

・派遣人数：延べ38人

[研修会]

区分	期日・場所	内 容 等
第1回	日時：令和3年3月6日(土) 場所：広島国際会議場 会議運営事務室ほか	内容：語学研修（英語・中国語） 講師：通訳者養成機関講師

第 2 回	日時：令和3年3月13日(土) 場所：広島国際会議場 会議運営事務室	内容：多文化共生社会における 通訳ボランティアの役割」 講師：公益財団法人北九州国際交流協会 事業推進課主任 矢野 花織
-------------	--	---

(オ) 外国人市民の総合相談窓口事業（決算額：2,140万4千円）

日本語に不慣れな外国人市民のために、多言語で対応できる相談窓口を開設し、対面や電話での生活支援相談、生活関連情報の翻訳・提供、行政機関等への同行、電話による通訳などを行った。

また、ベトナム語の相談日を週2日から5日に増やし、ベトナム語の相談体制を拡充したほか、ウェブサイトを活用して8言語で生活関連情報の発信を行った。

このほか、総合相談窓口では、広島出入国管理局職員による在留資格に関する専門指導を月1回（第2金曜日）実施した。

- ・対応件数：1,373件（相談：555件、通訳339件、翻訳479件）

（注）新型コロナウイルス感染症拡大の影響による相談が増加する中、広島市の依頼に基づき、定額給付金の申請手続きに関する相談窓口として対応した。

a 総合相談窓口

- ・対応言語：中国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語、英語

※ その他の言語については、翻訳タブレット等で対応

- ・開設場所：国際会議場1階 国際交流ラウンジ
- ・開設日時：月曜日から金曜日（祝日・年末年始・8月6日を除く）
午前9時～午後4時

b 巡回相談

- ・安芸区役所区政調整課内：月2回（第2水曜日（ポルトガル語）、第3木曜日（スペイン語））
- ・基町管理事務所内：月1回（第2火曜日（中国語））

(カ) 外国人市民の日本語能力向上支援事業（決算額：408万9千円）

外国人市民の日本語能力向上のための日本語講座等を開催するとともに、地域日本語教室を担うボランティアの育成やスキル向上のための講座等を実施した。

a 日本語教育コーディネーターの配置

- ・配置期間：令和2年5月から令和3年3月

b 入門レベルの日本語講座の開催

- ・期 間：令和2年9月29日(火)～12月11日(金)
(全21回)
- ・場 所：広島国際会議場3階研修室
- ・受講人数：延べ131人

c 日本の習慣や生活などを理解するための各種研修の開催

(a) はじめての「やさしい日本語」講座

- ・期 日：令和2年9月26日(土)
- ・場 所：広島国際会議場3階研修室
- ・受講人数：20人

(b) 外国人市民のための安全教室

- ・期 日：令和2年9月28日(月)
- ・場 所：広島県警察本部
- ・内 容：交通ルールの講習、110番通信指令室の見学等
- ・受講人数：15人

(c) 文化理解講座

- ・期 日：令和3年3月7日(日)
- ・場 所：C a f e & B a r E N（西区横川駅前）
- ・内 容：ひな祭り文化の紹介、折り紙体験（ひな人形制作）
- ・受講人数：15人

d 日本語ボランティア入門講座

(a) はじめてクラス

- ・期 間：令和2年10月9日(金)～11月6日(金)
(全5回)

- ・場 所：広島国際会議場 3 階研修室
- ・内 容：外国人市民による日本語学習体験談、日本語教室の紹介、ボランティアの心構え、やさしい日本語等
- ・受講人数：延べ 1 0 1 人

(b) 文法クラス

- ・期 間：令和 2 年 1 0 月 6 日(火)～1 1 月 1 7 日(火)
(全 5 回)
- ・場 所：広島国際会議場 3 階研修室
- ・内 容：外国人市民による日本語学習体験談、日本語ボランティア活動に必要な文法学習
- ・受講人数：延べ 9 3 人

e 日本語ボランティアスキルアップ講座

- ・期 日：令和 2 年 1 2 月 1 9 日 (土)
- ・場 所：オンライン開催
- ・内 容：日本語ボランティア活動をしている人を対象とした、現場で役立つ効果的かつ実践的な日本語指導法
- ・受講人数：8 人

ウ ひろしま奨学金支給事業（決算額：2,168 万 9 千円）

a ひろしま奨学金の支給

広島市内に居住し、市内の大学・大学院に在籍する私費留学生在が、経済的な問題に影響されることなく、安心して学業に専念できるよう奨学金を支給した。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により経済的に困窮している学生が増加したことから、広島市からの補助金を財源としてひろしま奨学金の追加支給を行った。

- ・支給人数：6 0 人（一次支給分 3 0 人、追加支給分 3 0 人）
- ・支給金額：3 0 , 0 0 0 円／月×1 2 か月

b 奨学生を対象とした平和学習

奨学生を対象とした平和学習を実施し、被爆の実相や核兵器廃絶に向けた取組を学ぶとともに、ヒロシマを発信する活動を積極的に

行ってもらおう予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止し、各自で平和学習を行い、実施報告書を提出してもらったこととした。

(3) 収益事業等

ア 広島平和記念資料館での収益事業（決算額：4,086万9千円）

(7) 出版事業

- ・ 広島平和記念資料館総合図録「ヒロシマをつなぐ」（日本語版）
印刷：5,000部
- ・ 広島平和記念資料館総合図録「ヒロシマをつなぐ」（英語版）
印刷：5,000部

(1) 販売事業

原爆・平和関係の図書、グッズ、DVD等を広島平和記念資料館内のミュージアムショップで販売した。

(ウ) 常設展示等の解説機器（音声ガイド）の貸出事業

広島平和記念資料館常設展示の詳しい解説が聴ける音声ガイドの貸出しを行った。

- ・ 解説言語：日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語、タイ語、（11言語）に加え、令和3年2月27日からアラビア語、インドネシア語、フィリピン語を追加
- ・ 貸出件数：8,539件

イ 広島国際会議場での収益事業（決算額：500万9千円）

臨時売店等での飲食等の販売、飲料水自動販売機の設置、コピー・ファクスサービス、レセプションの手配等を行った。

ウ 広島国際会議場の管理運営（決算額：3億4,795万2千円）

令和2年度から5年間、指定管理者の指定を受けており、施設及び設備機器の管理運営を行った。

※ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年4月17日～

5月21日、令和2年12月12日～令和3年2月7日は、臨時休館

〔ホール及び会議室の利用状況〕

区 分	貸出可能 区分数	利 用 区分数	利用率	利用件数
フェニックスホール	816 区分	60 区分	7.4%	27 件
国際会議ホール（ヒマワリ）	816	94	11.5	56
大会議室（ダリア）	1,632	314	19.2	107
中会議室（コスモス）	1,632	306	18.8	109
小会議室（ラン）	1,632	338	20.7	135
会議運営事務室	816	165	20.2	170
計	7,344	1,277	17.4	604

（注）利用率とは、貸出可能区分数に対する利用区分数の割合。

〔国際交流ラウンジの利用状況〕

区 分	利用者数	内 訳	
		日本人	外国人
国際交流ラウンジ	19,682 人	17,739 人	1,943 人

Ⅱ 無償使用貸借資産

事業を実施するに当たって、広島市から無償使用貸借している資産は次のとおりである。

建物

（令和3年3月31日現在）

名 称	所 在 地	区分	現 在 高
広島平和記念資料館	中区中島町1番2号	建物	事務室等 698.60 m ²
広島国際会議場	中区中島町1番5号	建物	事務室等 314.62 m ²

Ⅲ 事業報告の附属明細書

記載すべき事項はない。